

ガイド祭り:

翌朝、ホテルで天気情報を聞くと雨の予報ということなので、山に行くのを止めて、予定通りに「ガイド祭り」を見学することにした。毎年8月15日にシャモニではガイド祭りが開催される。アルピニストの町では山岳ガイドは居なくてはならない存在だし、皆から親しまれ尊敬されている。それが年一回一同に集まるのだ。



泊まったホテルのすぐ裏にあるサン・ミッシェル教会前の広場がその会場になる。写真は始まる前の朝の光景である。霧が立ち込め、背景の山がまったく見えない。

左の建物の裏にはガイド組合や高山事務所があり、左手には観光局がある。この周辺は登山を計画している人たちが山の情報を得るのに必ず訪れる場所だ。

祭りといっても華やかなものではない。ガイド達が正装(ガイドのユニフォームを着て)してシャモニ墓地で山で亡くなったガイドの記念碑に献花してから、町を練り歩いてこの教会で点呼を受けるというものだ。

正装したガイド、その回りに観光客が広場に輪になって集まり、来賓の挨拶から始まり、一人一人の紹介がある。言葉がわからないが、一人の紹介が長い。実績を紹介しているのかもしれない。紹介されると教会前のテラスに並ぶ。老若のガイドがいるが、正装してザイルを肩に担いだ姿は精悍で逞しい。

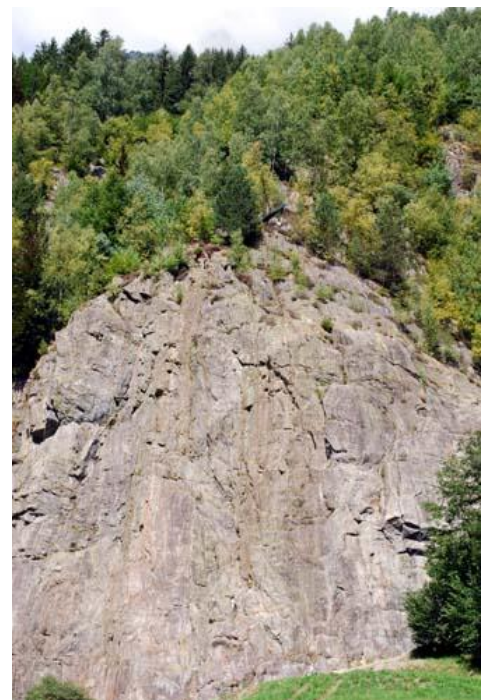
100名近くのガイドがいるので、時間がかかる。



この後、ガイド達が教会に入ってミサを奉げることになっているが、小雨がちらついてきたので、広場に開いていたガイド組合の露店からこの日しか一般には販売していないと言われて、シャモニのロゴの入ったガイドの制帽をみやげに購入して離れた。

プログラムでは午後に郊外のガイヤン岩場でガイド達による岩登りや遭難救助のデモンストレーションがあることになっていたが、雨で中止された。

右のガイヤン岩場は後日撮ったものだが、この岩場はアルピニストにとっては聖地として有名である。ガイドも世界から訪れたアルピニストも一度はここで訓練を受けているという。



ガイドも世界から訪れたアルピニストも一度はここで訓練を受けているという。